

世界自然遺産登録5周年
国立公園指定10周年記念

奄美・沖縄
子ども交流事業

子ども新聞

学び、深めた郷土愛

特別号



ピナイサーラの滝
ツアー



野生生物保護センターでの
環境学習



祖納集落 豊年祭へ参加



西表島小中学生との交流会



ナイトツアーで
夜の生き物観察



水牛車に乗り由布島へ

令和8年7月28日から31日までの4日間、奄美群島の中中学生12名が西表島を訪れ、交流事業を実施しました。野生生物保護センターでの環境学習をはじめ、ピナイサーラの滝ツアーやナイトツアーなど、豊かな自然を体感するさまざまなエコツアーを体験。また、西表島の小中学生との交流会では、一緒に活動しながら交流を深めました。

奄美群島の中中学生は、研修前に自分が住んでいる島と西表島の違いについて事前に学び、研修に臨みました。実際に西表島を訪れると、自然や文化の中に「違い」だけでなく、島同士の「共通点」もたくさん見つかりました。見て、聞いて、触れて、話して——。4日間の体験を通して、子どもたちは西表島の魅力を発見するとともに、自分たちが暮らす島の魅力も改めて見つめ直しました。

新たな発見と、成長。

徳之島町立亀津中学校
3年 森島 ゆずは

① 心に残ったこと

私が今回の研修で一番印象に残ったことは、西表島の小中学生との交流会です。同じ世界遺産に登録されている島に住んでいても、自然や生態系などに違いがあり、新たに知ることがたくさんあってとても勉強になりました。また、西表島の小中学生への質問で西表島での生活の様子についても知ることができました。自然だけでなく文化や生活の様子など西表島と徳之島ではいろいろな違いがあるということが分かり、貴重な経験と楽しい時間を過ごすことができました。

② 学んだこと・気づいたこと

西表島では自然だけでなく文化についても学ぶことができました。祖内集落の豊年祭では祭りの迫力に感動するとともに、集落の伝統を感じることもできました。自分の住んでいる集落にはこのような大きなお祭りはなく、とても新鮮でした。水牛車では八重山諸島の民謡を聞くことができ、自分の島で歌われている民謡との違いを感じることができました。また、ナイトツアーでもガイドさんのお話の中に西表島が琉球王国だった頃の話聞くことができ、とても勉強になりました。

③ 自分の成長につながったこと

私は、野生生物保護センターでの学習や西表島の小中学生との交流を通して、「知る」ということが大切だと思いました。なぜならば、知ることによって新しいことを見つけることができると思うからです。例えば、西表島で、イリオモテヤマネコのロードキルが問題になっているように奄美や徳之島でも貴重な生物に対するロードキルが問題になっています。そこで私は、西表島で行われている対策を自分の住む島でも行ってみればロードキルの数も減っていくのではと考えました。しかし、西表島で学んでいくうちにその考えは正しくないなと思いました。生物にはそれぞれにあった対応があり、それを見つけるためにその生物を知り、その土地を知ることが大切だという考えになったからです。ですからこれからも自分の島と、その外側にも目を向けて学び続けていきたいです。

④ これから、自分にできること

今回西表島で学んだことを活かして自分ができることはゴミ拾いなどの徳之島の自然のために行われている活動に積極的に参加することです。西表島での研修を通して私は、改めて自分の住む島の自然の価値を見つけることができました。清掃活動は、そんな自然を未来へ繋げていくために行われている一番身近な活動です。しかし、ただ参加していくのではなく家族や友人などを誘って、できるだけ多くの人と参加したいです。そうすることでたくさんの人の自然に対する意識を高めることができると思います。これからも今回の研修で学んだことを活かし、自分にできることを日々探しながら過ごしていきたいです。



▲水牛車に乗っている写真。初めて水牛を見ました。



▲ピナイサーラの滝での写真。滝の迫力に感動しました。



▲野生生物保護センターでの写真。イリオモテヤマネコ検定にも挑戦しました。